



広報 KOGA NO.51

こが 古河

目次

- 2 古河市地域交流センター
- 4 古河市景観計画
- 6 地球温暖化防止月間
- 8 障害者週間
- 10 秋のイベントカメラルポ
- 12 高齢者元気アップ事業
- 13 遠きにおいて

12

DECEMBER

2009

まちづくりの核として

「古河市地域交流センター」

建設基本設計の内容をお知らせします！



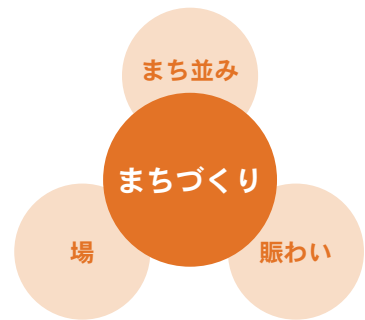
※建設基本設計におけるイメージ図であり、実施設計において更に検討します

3つのコンセプト

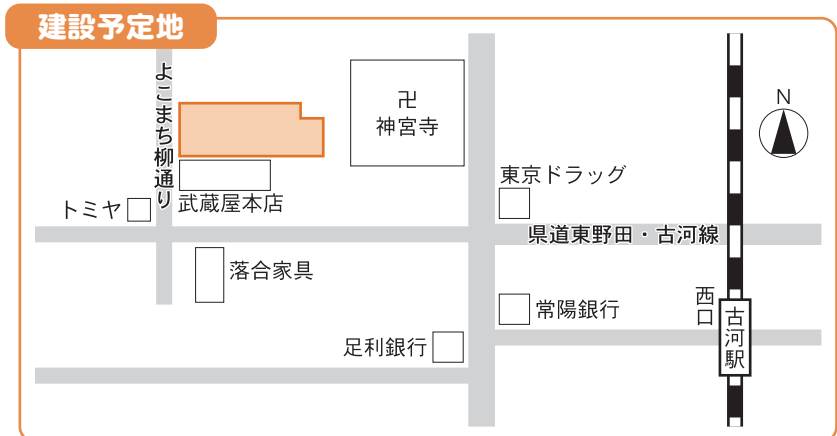
まち並み…「よこまち柳通り」に残る歴史ある建物を考慮した外観デザイン。当施設が核となって今後、景観に配慮された通りに発展して“まち並み”を形成していきます。

場…駐車スペースは、七夕まつり、屋外イベントなどの用途に利用します。屋台ホールは、屋台の舞台を活用して演劇などの発表の場、ミニコンサートなどの音楽活動、朗読会、舞踊、落語会、また視聴覚室としての用途に利用します。さまざまな人々、さまざまな活動によって見えてくる表情が変化する“場”としての空間づくりをします。

賑わい…建物内部の様子を外部から、部屋内部の様子をロビー空間から感じ取られるようにガラス面を多用した外壁、内壁のデザインとします。通りを歩いている人や施設内に訪れた人に“賑わい”を感じられる施設とします。



【問】古河庁舎 生涯学習課 ☎22-5111



事業の目的

古河駅西口地区の賑わいの創出を図る事業の一つとして計画したものです。

この西口地区は、多くの歴史的資源や偉人、文化の足跡を残す地域であり、これらの歴史、文化資源情報や古河の魅力ある祭りを中心とした、観光情報を提供することにより交流人口の増加を図り、活力あるまちづくりを目指すものです。

3つのエリアを拠点に

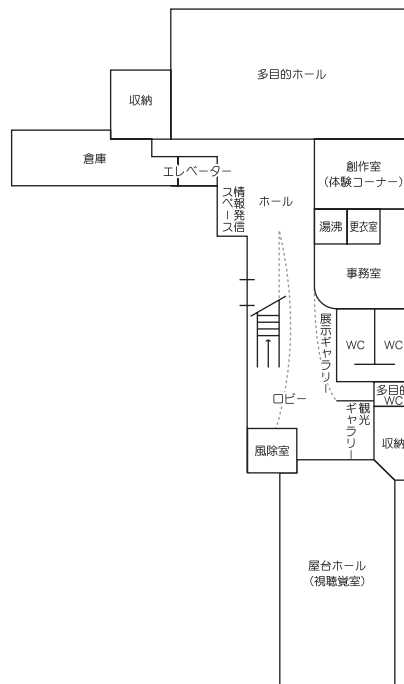
旧日光街道に位置している本地区は、「古河駅西口界限」「出城界限」「よこまち柳通り界限」の3つのエリアを拠点とし、古河駅を中心に商店街通りや、古河歴史博物館などの文化施設を回遊するまちづくりをしています。

また、地域交流センターは「よこまち柳通り」の拠点づくりに位置付け、西公民館の代替施設として生涯学習機能を担い、市民や観光客が交流できる施設とします。

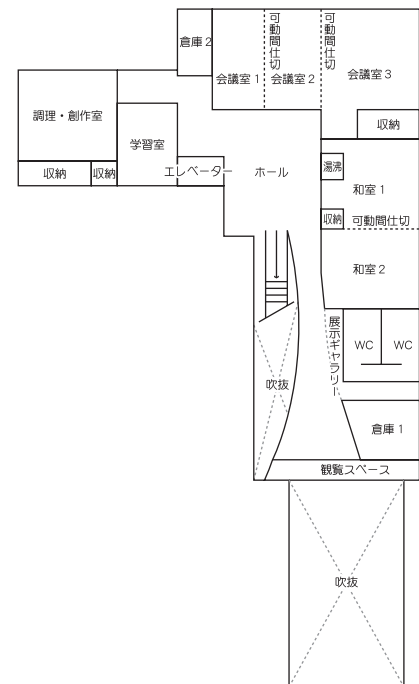
地域住民の意向を踏まえて

地域交流センター基本設計にあたり、平成18年度・平成19年度に商工関係者、公民館運営審議会委員、学識経験者による建設検討委員会を6回開催し、検討結果が提言書として報告されました。さらに、平成20年度・平成21年度には自治会、公民館、観光、商店会の地元の皆さんの検討会において、より具体的な意見を出してもらい、それらを基に検討を重ねてきました。

1階平面図



2階平面図



【建物概要】

構造：鉄筋コンクリート造 階数：2階建て
場所：横山町一丁目5531番地1 他
延べ面積：1,695㎡ 昇降機：乗用エレベーター1基
事業費：6億5,000万円 完成予定：平成23年7月

待ち遠しい「地域交流センター」

白石和宏さん
横山町自治会長



「地域交流センター」の建設は、わたしたち地元住民の長年の願いでありましたので、本当にうれしく思っています。

また、建設完成後の地元商店会としての役割がとても重要になると思います。地域住民と一体となり、市内の人はもちろんのこと、市外からお越しになる人たちをもてなす環境づくりをしていこうと考えています。1日も早い完成を願っています。

市民参加による

古河市景観計画の策定を進めています



古河市は、多くの歴史資源や雄大な自然に恵まれ、美しい風景や街並みが残る街です。市では、この美しい景観を後世にどのように維持、また、新たな景観をどう創り上げていくべきか、ということをご古河市景観計画としてまとめているところです。「ふるさと古河」の良好な景観まちづくりのためには、市民、事業者、行政の連携が必要であることから、たくさんの市民や事業者の参加により策定作業を進めています。今回は、その内容をご紹介します。

【問】 総和庁舎（本庁）都市整備課 ☎ 92-3111

市民目線からのさまざまな意見が出ています

計画策定の作業には、策定委員会やワーキング会議、市民ワークショップとさまざまな組織に多くの市民が参加しています。

現在は、古河市の景観に関心が高い市民の皆さんで構成する市民ワークショップの活動が主として進んでいます。市民ワークショップに参加の皆さんからは、古河市の景観に関し、それぞれの地域で生活を営む市民の目線ならではのさまざまな意見が出ています。



古河歴史博物館周辺を散策



雀神社周辺を散策



ネーブルパークを散策

古河の景観再発見のため まちへ飛び出そう

会議室で古河市の景観について考えても、イメージがわからないだろうということで、ワークショップに参加の皆さんで、良い景観、課題のある景観に注目してまち歩きをし、景観イメージを膨らませました。

新しい発見がありました

注意しながらまちを歩いてみると、今まで知らなかったことも結構見えてきます。じっくり見ることで、歴史的な背景や地元の人に守られてきた神社の存在など、まさに新たな発見！です。その中からいくつかご紹介します。

◆「鎌倉街道沿いには立派なお寺が多い。」

昔の名残を感じるくねくねした街道には、勝願寺、正定寺、東光寺など、寺院が散在しています。「いざ鎌倉！」の時代を偲ばせます。



東光寺の椎の木(前林)

◆「雀神社前の土手から見た景色は絶景」

目の前には、渡良瀬川が広がり、その背景には日光連山、富士山も望め、まさに 絶景といえるでしょう。

◆「旧町名や地名からその土地にまつわる歴史的背景が読み取れる。」

古河地区では、肴町、鍛冶町、代官町など城下町としての名残が地名から見ることができます。また、総和地区の水海、柳橋からは地形の様子が分かります。三和地区では、仁連、恩名など言い伝えなどが背景にあります。

このような文化的資源から景観を考えることも大切であると実感しました。

一方、課題も出ました……

平地林の管理、河川のごみなどがあげられました。手を掛けることで蘇る景観やモラルの向上によって、景観は良くも悪くもなるようです。



古河市の代表的な景観

それぞれの地区から出てきたさまざまな景観から代表的なものをご紹介します。

【古河地区】雀神社、篆刻美術館など、神社仏閣を始め城下町の面影が残る景観が出ました。他にも古河総合公園、茶屋新田の松並木など、貴重な景観資源が散在しています。



茶屋新田の松並木

【総和地区】「関東のへそ」ネーブルパークが有名ですが、八幡神社、鹿島神社など多くの神社仏閣があり、八坂神社の老杉など樹木も貴重な資源として多くあります。

【三和地区】八俣送信所の鉄塔が他のまちにない独特の風景を創り上げているという意見が出ました。里山から眺める鉄塔群、また鉄塔群を通して



八俣送信所の鉄塔群

みる筑波山などが独特の雰囲気をかもし出しており、地域特有の資源として大切にしたい景観の一つと言えそうです。

貴重な景観を後世に伝えていくために

あなたの大切にしたい、守っていききたい景観はどのようなものですか？ 市民ワークショップなどを通じて大切にしたい景観とは何か、という考えがまとまってきました。これらの大切にしたい景観をどのように維持・保全していくべきかという次のステージへ向け、さらに活動は続きます。

身近な景観を向上させていくため市民の皆さんのご協力をお願いします。



12月は「地球温暖化防止月間」です！

【問】
三和庁舎
環境政策課
☎ 76-1511

CO₂CO₂(コツコツ)できることから やってみよう！



地球温暖化は、深刻な気候変動をもたらす人間を含む地球上のあらゆる生命を危機にさらすことが予想されます。これ以上大気中の二酸化炭素(以下CO₂)濃度を増やさないようにするには、そして減らしていくためには、何をすればよいのでしょうか？

“地球全体のCO₂排出量を減らす”という目標は、あまりにも大きく遠いように思いますが、これもスケールこそ違いますが、ごみ問題と変わりません。一人ひとりの生活がCO₂をはき出しているとしたら、一人ひとりの努力がCO₂削減につながるはずですよ。



増加し続ける 家庭部門のCO₂排出量

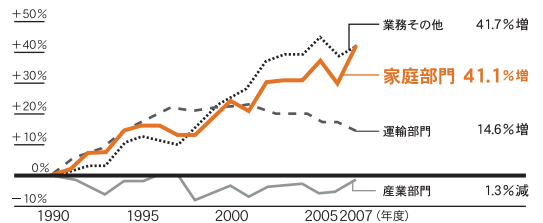
世界の中で日本は、決して温室効果ガス(地球温暖化の主な原因で、そのほとんどがCO₂)排出量の少ない国ではありません。日本は、国別のCO₂排出量が世界で4番目に多い国です。また、CO₂の国別一人あたりの排出量も世界で8番目に多く、その量は一人あたり年間約10トンになります(チーム・マイナス6%HPより)。

1990年に比べて温室効果ガス排出量を6%削減することが、日本に課せられた目標ですが、現在の温室効果ガス排出量は、1990年に比べて減るどころか、逆に9.0%上回っているのが現状です。

特に、2007年度の家庭部門のCO₂排出量は1億6,900万トンであり、基準年と比べると41.1%(5,250万トン-CO₂)増加しています。

わたしたち一人ひとりが、地球温暖化防止アクションを実践する必要性が急務なのです。

(環境省2007年度確定値/2009年発表)



増加し続ける家庭部門のCO₂排出量増加率 (1990年度比・国内)



家庭でできる 地球温暖化対策

CO₂は、わたしたちが生活するために石油や石炭などの化石燃料を消費(燃焼)することによって大気中に排出されています。できるだけ不要なものを買わず、大事にものを使い、再利用やりサイクルを心掛けることは大変重要なことです。また、節電をしたり、外出時の車利用を自転車や公共機関に切り替えたりする努力も必要です。

皆さんも次に挙げた「10の取り組み」をできることから始めてみませんか。CO₂の発生を減らすだけでなく家計の節約にもなります。

取り組みの例		1世帯当たりの 年間CO ₂ 削減効果	1世帯当たりの 年間節約効果	備 考
1	冷房の温度を1℃高く、暖房の温度を1℃低く設定する	約33kg/年	約1,800円/年	カーテンを利用して太陽光の入射を調整したり、着るものを工夫したりすることで、冷暖房機に頼らないで過ごせる。冷暖房を始める時期も少し待ってみる。
2	週2日往復8kmの車の運転を控える	約184kg/年	約9,200円/年	通勤や買い物の際にバスや鉄道、自転車を利用する。歩いたり自転車を使ったりの方が健康にも良い。
3	1日5分間のアイドリングストップを行う	約39kg/年	約1,900円/年	駐車や長時間停車するときはエンジンを切る。大気汚染物質の排出削減にも寄与する。
4	待機電力を50%削減する	約60kg/年	約3,400円/年	主電源を切る。長期間使わないときはコンセントを抜く。買い換えのときは待機電力の少ない製品を選ぶ。
5	シャワーを1日1分家族全員が減らす	約69kg/年	約7,100円/年	身体を洗っている間、お湯を流しっぱなしにしないようする。
6	風呂の残り湯を洗濯に使い回す	約7kg/年	約4,200円/年	洗濯や、庭の水やりのほか、トイレの水に使っている人もいる。残り湯利用のために市販されているポンプを使うと便利である。
7	炊飯ジャーの保温を止める	約34kg/年	約1,900円/年	電気ポットや炊飯ジャーの保温は、利用時間が長いいため多くの電気を消費する。ごはんは電子レンジで温め直すほうが電力の消費が少なくなる。
8	家族が同じ部屋で団らんし、暖房と照明の利用を2割減らす	約238kg/年	約1万400円/年	家族が別々の部屋で過ごす、暖房も照明も余計に必要なになる。
9	買い物袋を持ち歩き、省包装の野菜などを選ぶ	約58kg/年	—	トレーやラップは家に帰ればすぐごみになる。買物袋を持ち歩いてレジ袋を減らすこともできる。
10	テレビ番組を選び、1日1時間テレビ利用を減らす	約14kg/年	約800円/年	見たい番組だけ選んで見るようにする。
合 計		約736kg/年	約4万700円/年	

※環境省「身近な地球温暖化対策～家庭でできる10の取り組み」より



古河市役所では……

「環境基本計画の策定作業が開始」

市では、今年度から2カ年かけて古河市環境基本計画の策定作業を進めています。

この計画は、古河市の良好で快適な環境を保全し、創造するために必要な指針となるもので、市民の皆さんの健康で安全かつ文化的な生活を将来にわたって確保するために必要なものです。

地球温暖化をはじめとする地球環境問題や資源の循環利用と廃棄物の処理等、低炭素で循環型社会の実現を目指し、市民、事業者、行政が一体となって、今後の策定作業を進めていく予定です。



12月9日は「障害の日」、 12月3日～9日は「障害者週間」です



事故や病気などによって、障害は誰にでも生じるものです。障害は多種多様で、外見では分からない障害もあります。障害による不自由さはあっても、周囲の理解や配慮があればできることも少なくありません。障害のある人の意見を聞いて、日常生活や事業活動の中でできる配慮や工夫を一緒に考えてみましょう。誰もが暮らしやすい共生社会の実現は、そうした一歩から始まります。

【問】 総和福祉センター「健康の駅」内
障害福祉課 ☎ 92-4919

市では、各障害者団体が、障害をもった人の『閉じこもり防止』や『社会参加』を推進するため、さまざまな活動を行っています。そこで今回は、古河市障害者団体の活動内容を紹介します。

【古河市身体障害者(児)福祉団体連合会】

古河市身体障害者(児)福祉団体連合会は、市内に居住する障害者手帳を所持している人たちの自立と社会参加のために必要な援護指導、情報の収集・提供等を行うことで、身体障害者の各種活動を支援しています。

1泊の研修会、日帰りの歩行訓練、各種イベントの参加、会報発行等の活動を実践しています(現在の会員数は約220人)。

※若い障害者の人の参加を願っています。



【古河市視覚障害者協会】

古河市視覚障害者協会は、会員の社会参加促進と親睦を深めるため、次のような行事を実施しています。

4月：総会

6月：1泊旅行

8月：ぶどう狩り

11月：りんご狩り

1月：新年会

春・秋2回のマッサージ治療奉仕、その他カラオケの好きな同志が集まり、カラオケやレクリエーションなどを行っており、中途失明者の会員にも積極的に参加・協力していただいています。



【古河市聴覚障害者協会】

古河市聴覚障害者協会は、聴覚障害者の福祉および文化向上のために活動することを目的として活動しています(22人の会員)。

年2回の研修会や手話の指導、ふくしチャレンジスクール、ふれあい広場、手づくりまつりなどで、手話サークルなどの協力のもと行っています。

また、ろうあ者と健常者の交流を図ることを目的に、年3回の事業を企画し実施しています。

※会報を発行し、ろうあ者に情報の提供も行っています。



【古河市心身障害児(者)父母の会連合会】

古河市心身障害児(者)父母の会連合会は、種類や程度の違いがありますが、障害のある子を持つ親同士が結束して学習や事業を展開しています。具体的には、講演会・施設見学・旅行・クリスマス会・もちつき大会などの独自事業のほか、ふれあい広場・手づくりまつり・こどもまつりに参加し活動しています。これらの活動により健常者との相互理解を持つことができることにつながります。

孤独にならずに仲間たちと喜びを共有し、同時に悩みを解決されるはずです。



【古河地方家族会】

古河地方家族会は、心の病を持つ人たちの家族の会です。

年に5回の定例会を開き、参考になるDVDを見たり、悩みを話し合ったりしています。

また、年に1回は他の家族会と交流を持ったり、視察研修として先進地に見学に行っています。他にも、定期的に研修会を開いています(1月には、昨年好評だった『SST研修会』を行う予定。これは『生活技能訓

練』という意味で、生活する上で困ったことを解決していく技能を高める訓練です。)

※平成20年度から、家族会から独立した『NPO法人ふれあい』の支援も行っています。

なお、NPO法人ふれあいでは、『ふれあいフリーマーケット』出店者・来場者を募集しています。

日時 12月13日(日)

午前9時30分～

場所 古河福祉の森会館周辺

※詳細は、古河地方家族会まで

皆さんの参加をお待ちしています

団体名	代表者	連絡先
古河市身体障害者(児)福祉団体連合会	会長 青木哲雄	☎31-8326
古河市視覚障害者協会 古河市鍼灸・按摩マッサージ師会	会長 諏訪光英	☎32-3830
古河市聴覚障害者協会	会長 川崎武道	FAX98-2993
古河市心身障害児(者)父母の会連合会	会長 大高 滋	☎31-1526
古河地方家族会	会長 三浦美重子	☎48-6719

◆ ◆ ◆ 障害者スポーツ教室のご案内 ◆ ◆ ◆

市では、障害者手帳を持った人を対象に月2回、茨城県障害者スポーツ指導員指導による、スポーツ教室を実施しています(全12回、定員20人、申し込み制)。

フライングディスクやボッチャ、リズム体操など、参加者のレベルに合わせ、無理なく楽しく取り組める内容となっており、障害を持つ人の運動の習慣化に効果的です。

※来年度以降も実施する予定です。





1



2

秋を彩る古河のイベント



スポーツの秋、文化の秋、そして食欲の秋……。

今年の秋(10月から11月)も、古河市のあちらこちらで毎週のようにイベントが開催されました。

- 1 関東ド・マンナカ祭り(巨大カブトムシロボット)
- 9 産業祭(物産展による販売)
- 2 関東ド・マンナカ祭り(舞DANCE)
- 10 市民運動会・3地区(市民体操を披露しました)
- 3 さんさんまつり(三和祇園ばやし)
- 11 市民運動会・総和地区(パンくい競争)
- 4 菊まつり(色とりどりの菊花)
- 12 市民運動会・古河地区(樽ころがし)
- 5 市民運動会・総和地区(大玉ころがし)
- 13 よかんべまつり(古河名物の鮎甘露煮早食い大会)
- 6 市民運動会・古河地区(小学生リレー)
- 14 よかんべまつり(手作り自動車のチキバン号)
- 7 菊まつり(菊おすめがおもてなしをしました)
- 15 よかんべまつり(フラダンスショー)
- 8 市民運動会・三和地区(消防分団対抗リレー)



「住基カード」を利用して元気アップ!



昨年の7月から「ゼロ予算アクション事業」の一環として取り組んでいる「高齢者元気アップ事業」(住民基本台帳カードの多目的利用)を、より多くの人に利用してもらえるようにお知らせします。

【問】 総和福祉センター「健康の駅」内

高齢福祉課 ☎ 92-5838

「高齢者元気アップ事業」の対象施設

施設名	対象内容	所在地	電話番号
古河老人福祉センター	入館料	新久田285	☎48-0328
総和老人福祉センター	入館料	北利根10	☎92-5888
古河歴史博物館	入館料	中央町3-10-56	☎22-5211
古河文学館	入館料	中央町3-10-21	☎21-1129
篆刻美術館	入館料	中央町2-4-18	☎22-5611
三和農村環境改善センター	浴室利用料	東山田1808-12	☎78-1815

対象 70歳以上の高齢者

内容 市内在住の70歳以上の高齢者が、住民基本台帳カード(写真有り)を上記の公共施設に提示することにより、無料で利用できます。
※住民基本台帳カードの交付については、総和庁舎市民課または古河庁舎・三和庁舎の市民窓口室にお問い合わせください。

【問】 市民課(総和庁舎) ☎ 92-3111、市民窓口室(古河庁舎) ☎ 22-5111、市民窓口室(三和庁舎) ☎ 76-1511



「住基カード」を持っていると、とても便利なので、まだ持っていない人は、ぜひ申請してください。

ユニークな取り組みで団体表彰を受賞!!

9月28日、総務省所管の、「地方公共団体情報化職員等表彰式」が行われ、住民基本台帳カードの推進について、ユニークな取り組みを行っている団体として古河市が表彰されました。

◆平成20年度「住基カードで施設が無料」

◆平成21年度「住基カードを使って自動交付機で税証明書も発行」



▲これからも市民に喜ばれる事業を展開していきます(表彰式の様子)



▶天照伝説の香り漂う阿蘇の水名勝「高千穂峡」。真名井の滝は日本の滝100選に選ばれ、この滝の下を手漕ぎボートで遊覧できます



結婚後、当時勤めていた会計事務所の退職を機に、妻の出身地である宮崎県宮崎市に引っ越しました。宮崎県に越して19年になりますが、気候も人柄も良く住みやすい土地だと思います。当時は、街の中心部以外は何か懐かしい感じで、わたしが小学生だったころの古河市の街並みに似ていました。当時は自宅の近くにスーパーやコンビニエンスストアも無く不便でしたが、今では開発も進み図書館やコンサート会場などもできて近代的な街並みになりました。

もともと宮崎には、自然と神話の観光名所が数多くあるのですが、今では東国原県知事の効果によって知名度も上がって、宮崎県庁までもが観光名所となっており、連日庁舎前や隣接の物産館はたくさんの観光客で賑わっています。また、宮崎に来て一番苦労したのは、言葉の違いでした。方言や言葉の使い方などで、妻と一緒にいる時は通訳してもらっていましたが、仕事の時などは、会話の流れで何とか話をしていました。しかし、家に帰り改めて妻に聞いてみると全然意味が違っていることは多々ありました。でも今では、実家に帰省した時に家族と話をしていると、妹に「言葉が変だよ」と言われるようになってしまいました。

古河での思い出といえば、やはり家族と過ごした日々です。特に幼少のころ、祖父に連れられて釣り堀に行ったことは、今でも良い思い出です。最近は年に1回から2回帰省していますが、家族で毎年の恒例行事となっているパーベキューは、楽しみにしていることのひとつです。仕事の関係で連休でもないと帰省するのが難しく、ここ数年参加できないのが残念です。



宮崎県宮崎市在住
小倉和夫さん(後列左から3番目)

また、古河市は帰省の度、街並みが変わってきました。これからも変わっていくと思いますが、古河市の自然等の良きところも残しながら住みやすい街になっていくことを期待しています。今は、古河を離れ宮崎に住んでいます。いずれは古河に帰り暮らしたいと思っています。

日ごろの訓練の成果を発揮

10月18日、第60回茨城県消防ポンプ操法競技大会県西部地区大会が古河市中央運動公園イベント広場にて開催されました。これは火災を想定した消火作業におけるタイムと規律を競うものです。県西部地区7市3町の14チームの消防団が出場し、半年以上にわたる厳しい訓練の集大成を披露しました。

古河市消防団の結果は、総和第4分団が3位、三和第6分団が6位、古河第5分団が7位と全て入賞を果たしました。また、優秀選手として総和第4分団分団長の野本賢一さんが選ばれました。



▲火災現場での迅速な行動に生かされます

きれいなまちづくり 利根川クリーン作戦

11月7日、古河市河川をきれいにする運動部会による「利根川クリーン作戦」が、秋空のもと行われました。参加者は、地元企業や行政区、高校生ボランティアなど230人。利根川堤防周辺(延長7.3km)を4班に分かれてごみを拾いました。

集まったごみは、空き缶やペットボトル、紙くずなど790kg。2tトラック3台分の量になりました。

皆さんの協力で、利根川周辺がとてもきれいになりました。これからも、利根川の美しい自然環境をみんなで守っていきましょう。



▲みんなで協力してごみ拾い

芸術と文化の秋を楽しんだ「市民文化祭」

9月12日から約3カ月にわたって開催される古河市民文化祭。期間中に開催される催しは40以上です。内容は展示、踊り、合唱、人形劇、茶会などさまざま、日ごろから幅広い分野の文化活動をしていることが伺えます。

数ある催しの中でも、市民の皆さんの作品がたくさん集まるのが3地区で開催された総合展。書道・絵画・写真・華道などの力作が展示されました。会場を訪れた人たちは、素晴らしい作品を鑑賞しながら文化の秋を楽しんでいました。



▲絵画・書道、写真、美術、華道などの作品が展示されました

大臣表彰を受賞

法務大臣表彰

このほど、森昭男^{てるお}さん(上片田)が、永年にわたって人権擁護活動に尽くしたことにより、法務大臣表彰を受賞しました。



文部科学大臣表彰

このほど、力善柔道クラブが、永年にわたって生涯スポーツ活動に尽くしたことにより、文部科学大臣表彰「生涯スポーツ優良団体」を受賞しました。



市政トピックス

【古河名崎工業団地予定地】

古河都市計画「名崎地区」地区計画が決定されたことをうけ、このほど「古河名崎工業団地予定地」の看板が、(財)茨城県開発公社により建てられました。



【スーパープレミアム商品券】

前回大好評だったスーパープレミアム商品券の追加販売のための予約を受け付けました。今後の市内経済の更なる活性化が期待されます。



戦没者慰霊祭

10月28日、生涯学習センター 総和(とねミドリ館)で、先の大戦で、尊い命を捧げられた戦没者の英霊に対して、ご遺族の参加のもと市主催による「古河市戦没者慰霊祭」が行われました。



▲当日は、約300人の遺族が集まり、世界平和を祈念しました

日々新たなり

古河市長 白戸仲久

～ 渡良瀬遊水地 ～

渡良瀬遊水地で先月8日、市民マラソン大会が開かれました。この大会は、古河青年会議所が創立30周年を記念し企画したもので、『I Love 古河マラソン in 谷中湖』と銘打った大会には、大人から子供までの約1,600名が参加しました。

ハーフ・10km・5kmの各マラソンの他、キッズラン(2km)・親子ペアラン(2km)、合わせて5種目が用意され、市民が広く参加できるよう配慮がなされていました。

お招きに預かり、私が開会式出席のため会場入りすると、多くのランナーが受付所で列をなし、また、既にウォーミングアップを始めている方もたくさんいました。

近年、市民参加型マラソンの人気が高いようですが、改めてここでもそれを実感しました。

さて、渡良瀬遊水地は、市民が誇る大きな財産であり、また、本市を内外にPRできる貴重な地域資源でもあります。

私は市長に就任以来、渡良瀬遊水地をまちづくりに活か

せないか、いや、もっと活かしたい、そんな気持ちで取り組んでいます。

こうした中、古河青年会議所の皆様から市にもたらされた遊水地での市民マラソン大会の企画は、大いに歓迎すべきものでしたので、市でも開催費用の一部を助成させていただきました。

私は今、渡良瀬遊水地を日常的なもの、たとえば、観光資源として活かせるような検討を進めています。もちろん、その玄関口は古河駅です。

雄大で自然あふれる遊水地、イベントの話題性を高めてくれる遊水地。渡良瀬遊水地には、まちづくりのヒントが隠れています。

市民の皆様とそのヒントを探り当てながら、渡良瀬遊水地を古河市の知名度向上と活性化に活かしていきたいと考えています。



▲古河駅から渡良瀬遊水地を望む

My Hobby

温もり伝わる“手づくり作品”

鈴木公子さん(尾崎)

家事や育児の合間など、空いている時間で気軽にできるものが手工芸。最近ではご近所の主婦仲間が集まって手芸教室やサークルを開いて会話やお茶を楽しみながら作品作りをすることが静かなブームになっているようです。今回は、そんな手工芸の作品に魅せられた鈴木さんにお話を伺いました。

作ることの楽しさ

幼少時から裁縫や絵を描くことが好きだった鈴木さんが手工芸と出会ったのは今から約20年前。子育てが一段落したので何か趣味を探していたところ、三和公民館で講座を募集しているのを知り、参加したのがきっかけです。「水墨画の講座から始まり、絵手紙・押絵・あんどん・人形作り・竹芸・凧作り・俳句・繭クラフトなど……。そういえば、手品も習っていたのよ！」と幅広い講座を受講してきた鈴木さんは、最近では“繭クラフト”の魅力に引かれています。

▶ 繭クラフトは、手先を動かす作業なので認知症防止にもつながります



▲「ギャラリーはこべ」と名付けた手づくりのギャラリーを自宅敷地内で作って楽しんでいます

珍しい“繭クラフト”

繭クラフトとは、繭を使ってお花やブローチを作るアートです。自宅の敷地内にある「ギャラリーはこべ」に入ってみると、赤・ピンク・白・黄緑の艶のあるお花が花瓶に活けられていて存在感がありました。早速、繭クラフトの作り方を伺うと「まず、サナギを取り出した白い繭を染めます。鍋に染料を溶かした水を入れ弱火で繭を煮詰めると色がつきます。染料は桜の枝やクチナシ、栗の渋皮などの植物を染料にすることもあります。それから、色の着いた繭に花びらの形になるように切れ目を入れて、4枚～5枚に薄くはがしたものを茎となるワイヤーに通していくとお花が完成！」と教えてくれました。

みんなに感謝

「いろいろな講座を通じて、たくさんの人と出会えたことがわたしの財産です。」と感慨深く話す鈴木さんは、幼いころの思い出・子育て・友人・人生の一部を新聞や雑誌などに投稿しています。その文書や写真をまとめて“鳳梨”と題した本にして家族の協力のもと発刊しています。最後に、何事にもチャレンジしている鈴木さんの夢は？と尋ねると「個人的には、もう少し水墨画を勉強することと、みんなで力を合わせてひとつの作品を作り、市民文化祭などに展示してみたいです！」と力強く答えてくれました。

季節の移ろいととも、ネーブルパークもすっかり冬景色となり、春から秋までの賑わいがまるで夢のような落ち着いた雰囲気醸し出しています。今年一年もたくさんの方が来園され、季節の花や木に触れたり、バーベキューやポニー乗馬など、それぞれのスタイルでネーブルパークを楽しんでもらえたかと思えます。冬のこの季節、今回はそんなネーブルパークのもう一つの楽しみ方を紹介します。

ネーブルパークには、宿泊施設としてキャビンのほかに「研修センター平成館」があります。「研修センター」という名前から少し堅いイメージを受けますが、研修に限らず、1人での宿泊も利用できる施設です。

館内にはレストランや大浴場もあり、ちょっとした旅行気分を味わうこともできます。平成館周辺の景観は公園の四季そのもので、とくにレストランからの眺めは季節ごとの彩りを楽しませてくれます。



▲季節感が漂うネーブルパーク・平成館

ところで平成館では、宿泊パック「つどい（一泊2食付）」を今年も2月末までの冬期限定のプランとしてご用意しました(詳細は下記まで問い合わせください)。特に今年は「鍋パック(あんこう鍋または寄せ鍋)」を追加し、冬ならではの企画となっています。この機会に皆さんもネーブルパークの新しい楽しみ方として、平成館での宿泊を体験してみてください。

枯葉舞い、静寂に小鳥さえも感じる冬のネーブルパーク。“寒い”と感じながらも季節を実感することはとても心地が良いものです。年の瀬を迎え、忙しさに追われるこの季節ですが、たまにはネーブルパークで心と体のリフレッシュをしてみたいはいかがで

しょうか。

【問】ネーブルパーク研修センター「平成館」

☎92-7300

HP <http://www.koga-kousha.or.jp/heiseikan/index.htm>

文化財の窓

発掘された古河の「道」

皆さんは、古河市で過去に行われた発掘調査で、昔の道路跡が出土していたことをご存じでしょうか。磯部に所在する香取東遺跡では、東牛谷・釈迦線の建設に伴い、平成11年から平成12年にかけて、発掘調査が行われ、今から約500年前の室町時代の道路跡と、付随する集落跡が出土しました。この道路跡の特徴は、現在使用されている市道(古河市道総和2484号線)に並行する形で見つかったことで、この市道は室町時代にまで遡ることが確認されました。約500年前といえば、あの古河公方が古河に居を構えていた時代です。この遺跡からは、青磁や白磁といった、当時の中国産の最高級の焼き物をはじめ、東海地方で生産された古瀬戸と呼ばれる焼き物や、桶の底や櫛などの木製品も出土しています。この遺跡の近隣には、古河公方の重臣の梁田氏が居を構えたことで知られる水海城が所在しており、その関係が窺われます。

この道路跡は、旧古河岩井線(現在の国道354号線の一部)の前身であると考えられていますが、かつてこの道は殿様街道と呼ばれていました。梁田のお殿様が、古河に行く際にこの道を使用していたと言われるからですが、お殿様は頻繁にこの道を使用し

ており、地域の住民たちは、お殿様が道を通るたびに道を掃き清め、お殿様が通る際には、その姿が見えなくなるまで平伏していなければならず、農作業にも支障があると嘆いていましたが、それを聞いたお殿様は、自分たちの姿が早く住民の視線から消えるように道を曲げた、という言い伝えが地元に残されています。この言い伝えが史実かは分かりませんが、道に曲り角が多いということ、昔の人たちも感じ、そのような言い伝えを残したのかもしれない。

その他にも古河には、「往還西」や「鹿養大道」、「東海道」といった道に由来する地名を数多く見ることができます。現在も古河は南北と東西に幹線道路が交差する交通の要衝ですが、中世などに遡りうる道は、近世の絵図や現代の地籍図等からも見ることができます。絵図の中には「鎌倉街道」と記された道もあり、近世の人たちも、その道を中世に遡る道として認識していたのでしょうか。わたしたちにも身近な道が、いつごろまで遡るのか、どんな人や物が行き来をしていたか、そう考えながら道を見て、歩いてみるのも楽しいかもしれません。(文化課文化財保護係)



▲香取東遺跡出土の中世の道路



ミュージアムしゅたー museums in koga

いよいよ年の瀬！ 忙しくも華やかで活気あるこの月 本年最後の展覧会のご案内です

■古河歴史博物館 テーマ展「甦る鷹見泉石の文化財(国指定重要文化財修理の足跡)」12月23日(水)まで

平成17年度より、国・県の補助事業として、国指定重要文化財「鷹見泉石関係資料」の保存・活用を目的とする修理事業が開始されました。経年劣化による破損の著しい絵地図群をはじめ、修理が必要な文化財はおおよそ370点に及びます。そのため、当館では、長期計画を策定して、貴重な文化財の公開促進と保存のための修理を継続して行っているところです。今回修理を行い甦った鷹見泉石関係資料と、通常、博物館にとって舞台裏にあたる修理工程の紹介を通して、文化財修理の意味と理念を紹介しています。



▲『蘭化雑編』解体修理の様子 古河歴史博物館 テーマ展「甦る鷹見泉石の絵地図」より

■古河文学館 「永井路子と戦国女性」4月22日(木)まで

NHK大河ドラマ「毛利元就」の原作『山霧』などを中心に、永井路子が描いた戦国時代の女性に迫る。

■篆刻美術館 「第19回古河市小中学生古文字書道展」12月17日(木)から3月11日(木)まで 識字運動の一環として、市内小中学校の協力を得、甲骨・金文・篆書による書作品を展示紹介する。

■古河街角美術館 テーマ展「立石光司展」1月21日(木)まで

毎日展・独立書人団を中心に活躍し、郷土の書道界の発展に尽力した古河市の書家・立石光司(1927~2002)の作品を紹介する。

■三和資料館 第12回館蔵資料展「近世名主の世界」1月31日(日)まで

三和地区の名主家に伝わる文書を通して、江戸時代の村における名主の役割を紹介する。

開館時間

午前9時から午後5時
(入館は4時30分まで)
※三和資料館は午前10時から午後6時

【問】

古河歴史博物館 ☎22-5211
古河文学館 ☎21-1129
篆刻美術館 ☎22-5611
古河街角美術館 ☎22-5911
三和資料館 ☎75-1511

図書館おすすめの図書

◇一般書
・階

谷村 新司 著



思い出してください。大切なことを……。イルカと話す少年、故郷を訪れた指揮者、絹の道を追いつける男。親から子へ、モノから心へ。心に生命の火を灯す、6つの音と旅の物語。

出版社…角川書店 分類…Fタニ

◇児童書

・いのちのもりで

やなせ たかし 作・絵



漫画家のいねむりおじさんと森へ行ったボクは、ケロさんという不思議な人に会いました。ケロさんが笛を吹くと、命が生まれるのです。「いのち」「平和」の大切さを語る絵本。

出版社…ダイヤモンド社
分類…Eヤ

(三和図書館)

健康情報局

何でも食べる子元気な子！

子育て中のお母さんの悩みに多いもののひとつに「子どもの好き嫌い」があります。子どもに嫌われるのは、圧倒的に野菜。その次に肉・乳製品・魚と続きます。野菜は独特の苦味やにおい・口当たりがあり、子どもは苦手です。肉は硬すぎて嫌がり、魚は家庭で食べる機会が少ないと慣れずに嫌がります。しかし、楽しい食の体験の記憶により好きになることが多いので、家庭でのほたらきかけが必要です。

また、「人見知り」があるように、食品に対しては「味見知り」があります。子どもは新しい食品や味に馴染めなくて「嫌い」という反応をします。小さいころからいろいろな食品に慣らすことも大切です。

苦手なものも好奇心を刺激しよう

誰でも苦手な食べもののひとつくらいはありますが、家庭での食卓にのぼることの多い食材は、なるべく好き嫌いなく食べてほしいものです。調理に工夫を凝らすことも大切ですが、一緒に食事作りをしたり、家庭菜園などで野菜作りに挑戦したりすると、それまでとは違う目で食材を見ることが出来ます。好奇心を刺激されて、子ども自身が食べものに興味を持つことで、苦手意識を払拭するきっかけになることがあります。

偏食予防も生活リズムから

おなかがすいていれば食事は残

さず食べることができますが、食事の前に甘いジュースやお菓子を与えるとおなかがそれで満たされてしまい、たとえば大好きなお肉だけ食べてしまい、嫌いな野菜はもうおなかいっぱいだから残すということになります。

偏食の予防には、おなかをすかせて食卓につくことができるように、遊び・食事・おやつ・睡眠などのリズムを整えることも大切です。

食べられたらたくさんほめよう

子どもにとって嫌いなものは味だけでなく、においや食感などさまざまな要因が考えられます。無理強いするとかえって食べようとしなくなるのでやめましょう。

嫌いなものを細かく刻んだり、すりおろしたりして料理に混ぜ込む方法もありますが、うまみのある食材と一緒に調理したり、汁気の多い料理にしたりすると多少食べやすくなるようです。

また、家族がおいしそうに食べている姿を見て、いつの間にか嫌いなものでも食べてしまうことがあります。あせらずに見守り、ひと口でも食べてみようと根気よく励まし、少しでも食べられたときには、たくさんほめてあげましょう。それが喜びと自信になって、子どもの食べる力になります。

(健康推進課)



表紙写真

古河市の伝統行事であり、関東の奇祭といわれている「古河提灯竿もみまつり」。初冬の夜を熱気で包む豪快なまつりで、今年は12月5日、横山町お祭り特設会場で開催されます。

この祭りのルーツは、かつての古河藩領で古河に隣接する栃木県野木町にある野木神社に伝えられる神事「七郷めぐり」にあり、それぞれの趣向を凝らした提灯をつけた約20mの竹竿を約20人ほどで支え、互いの提灯の火を消そうとして激しくもみ合う、荒々しい祭りでは別名「おかえり」と呼ばれています。

寄付

古河ライオンズクラブ(狩野貞男会長)より、防犯対策として防犯カメラ1台の寄付。

人口と世帯

(11月1日現在 住民基本台帳から)

総人口	145,294人(-21)
男	72,922人
女	72,372人
世帯数	53,974世帯(+41)

() 内は前月比

今月の料理

茄子と豚肉の炒めもの・具だくさん 野菜スープ仕立て



エネルギー=347kcal
たんぱく質=22.2g
脂肪=14.6g
カルシウム=83mg
塩分=1.5g

材料(4人分) 豚バラ肉200g、茄子3個、海老8尾、しめじ1パック、にんにく1片、玉ねぎ1/2個、ホウレン草6株、じゃがいも4個、パプリカ1個、トマト1個、赤唐辛子1本、固形スープ1個、塩・こしょう少々、しょうゆ少々、サラダ油大さじ2強

作り方 ①豚バラ肉は一口大に切り、塩・酒を振っておく。茄子は乱切りにし、塩水につけてあく抜きした後、水気を取る。海老は解凍し、片栗粉をまぶす。にんにく・玉ねぎはみじん切り。パプリカは3mm角、ホウレン草は軽く茹でて水気を絞り、みじん切りにする。②じゃがいもは皮をむき、薄切りにして茹でて軽く塩をふって皿に広げて敷く。③トマトを薄切りにし、②の上に敷く。④フライパンにサラダ油大さじ2を熱し、豚バラ肉、茄子、海老、しめじを炒める。火が通ったら、塩・コショウで味付けし③の上に盛る。⑤フライパンにサラダ油を適量入れ、にんにく、輪切りにした赤唐辛子を入れ、固形スープを400ccの湯に溶かしたスープを加える。⑥火が通ったら、ホウレン草のみじん切りを入れ、塩・コショウ・しょうゆで味を調べ、スープごと④の上にかける。

(食生活改善推進協議会)

アイドル登場

「わが家のアイドル」

岩崎伽柵くん (1歳3カ月・上辺見)



わが家のアイドル伽柵くんは、9月で1歳になりました。おしゃべり、イタズラ、お外で遊ぶのが大好きな“ヤンチャボーイ”です。笑顔も泣き顔もとってもかわいくて、わが家に生まれてきてくれて、本当にありがとう！ パパもママもとっても幸せです。

古河には、3月末に引っ越してきましたが、今ではたくさんのお友達ができましたね。お友達を大切に、スクスク・伸び伸び・元気よく育ててね！
(父：仁さん・母：オリエさん)

古河風土記

狐の光・狸の音 闇と静けさと想像力を 喪失したいま

六道六本道七色狐という狐が現れて人を化かすという辻があるという。10年ほど前に上根で聞いた話ですが、当時の語りを再現すると「そこにはね、六道六本道七色狐、それが出たんだなって。昔はあそこへ通って、ぼんやりして、道違えちゃって、どっかいつちゃったって」と。「ぼんやりして」

狐に化かされるとは、なんとも飛躍した話ではありませんが、十字路や三叉路の道ならいざ知らず、おそらくは六本の道が交差するその場所、不思議な空間であったのでしょうか。だいたいが「六道」という言葉からして、異



▲化けた狸 (河鍋暁斎『暁斎略画』より)

がいます。先日も自動車にはねられた狸を見たので、おそらくはいまでもヤマで生活してるのでしょうか。江戸時代には、古河城下に現れては「たんぼこたん」と腹鼓を叩き、文明開化のちには「ゴッコゴッコ」と機関車に化けて現れるほど、同じ化けるにしても、積極的にその存在を音でもって主張していたものです。が、腹鼓は喧嘩にかき消されてしまい、最近では人を化かすほどのパワーがありません。

自然環境が変わり、騒音によって静けさが失われ、夜でも煌々と明るく闇が失われた現代。狸の音・狐の光は、静寂とともに、人々の感ずる世界から遠ざかってしまいました。わたしたちの家族にしっぽがついて

界との境界を想像させます。話に聞く狐のなかには、狐の嫁入りといって夜中に提灯の灯火が行列となしてヤマと里との境界領域に現れたり、あるいは人間世界にまでやってきて、女性に化けて結婚までして家庭を築いたりすることもあったと。いずれも、色・火でもって姿を現す狐は、闇の中で光あつてのものといえます。

いるのを密かに知ってしまったら、あるいは乗用車のエンジン音が「ボンポコ」いつてトランクからしっぽがはみ出ていたら……。そんな想像力も失った時代となっているのでしょうか。ところで、十数年一緒にいるけど、うちの家族にはしっぽは無いだろうな？ 「人すまでかねも音せぬ古寺にたぬきのみこそつづみうちけれ(寂蓮)」

さて、一方、こんなふう人間の生活領域にしばしば顔を出す生き物に狸

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

平成21年12月1日発行 ●発行所/〒306-0091 茨城県古河市下大野2248 古河市役所 ☎0280-02311
●編集/広報広聴課 ●ホームページ/htbp://www.city.furukawa.lg.jp/